

## 〈幼稚園教育〉

# 幼児の「しなやかな心と体」を育てるためのチーム保育の工夫 —園内研修の充実を通して—

大里村立大里南幼稚園教頭 大 城 美恵子

## 内容要約

幼児の「しなやかな心と体」の育ちをチーム保育の工夫を図りながら探し、教師間による日々の保育の協力と話し合いを深めつつ幼児理解を追究し、専門性を高めあう園内研修を試みた。

幼児理解を深めるために記録に基づいた研修、保育の省察、保育カンファレンス等、実践を通して幼児理解が深まり、幼児が担任だけでなく他の教師や友達にも目を向け、周囲の環境に主体的にかかわる姿が見られた。

【キーワード】 「しなやかな心と体」を育てる 幼児理解 チーム保育  
専門性を高める 園内研修の充実

## 目 次

I テーマ設定の理由	11
II 研究の視点	11
III 研究内容	12
1 幼児理解について	12
2 「しなやかな心と体」とは	12
3 「しなやかな心と体」を育てるには	13
4 チーム保育の実践にあたって	13
5 幼稚園教育の専門家としての専門性を高めるには	14
6 幼児理解とチーム保育を高めるための保育カンファレンス	14
7 園内研修年間計画	15
IV 保育実践	16
1 「しなやかな心と体」を育てるための実践事例	16
2 保育ビデオ視聴研修	16
3 公開保育(チーム保育)	17
4 公開保育後の園内研修	18
5 プレイマップの活用	18
6 園内研修における意識調査	19
V 研究のまとめと今後の課題	20

## 〈幼稚園教育〉

# 幼児の「しなやかな心と体」を育てるためのチーム保育の工夫

—園内研修の充実を通して—

大里村立大里南幼稚園教頭 大城 美恵子

## I テーマ設定の理由

21世紀というめまぐるしい変化の時代を生き抜くためには幼児の「しなやかな心と体」を育むことが大切であり、生きる力の基礎となると考えられている。『幼稚園教育要領』の「健康」の領域でも「幼児が教師や他の幼児との温かい触れあいの中で自己の存在感や充実感を味わうことなどを基盤として、しなやかな心と体の発達を促すこと」と述べている。最近の幼児の発達状況は、体格は良くなっている反面、体力面が低下していることや、依頼心が強く自分から物事に取り組む力が弱いこと等が指摘されている。また、社会状況の変化に伴い、家庭や地域で幼児同士で遊ぶ機会が減少している現在、友達への接し方が分からなくなつたため、自己中心的になつたり、周囲の人や環境に容易になじめず、なかなか自分からかかわれない幼児も多くなってきた。今後は自分から周りの環境にかかわって伸び伸びと生活し、自分の力で世界を広げていくことが大切である。

集団生活の中での幼児の活動は、ひとりで、グループで、あるいは学級全体で、様々に展開する。幼児一人一人が生かされるためには、幼稚園が安心して自己を發揮できる場になることが大切で、教師と幼児、幼児同士のつながりのある集団を形成することが重要になってくる。

本園の幼児は、明るく活発で、室内ではもちろん戸外での遊びも積極的である。しかし、遊びが単発的で持続性にやや欠ける面が見られる。人との関わりの面でも自己主張のぶつかり合いトラブルも多い。教師は、自己主張のぶつかり合う場面も重要な意味を持つと捉え、トラブルの状況やそれぞれの幼児の主張や気持ちを受け止め、お互いの思いが伝わるような援助に努めてきた。しかし、幼児理解が十分でなかつたり、援助のあり方が適切でない場合、幼児は気持ちの立て直しができないまま一日を過ごすことになる。日々の保育指導の充実を図るために、学級を基本としながらも、その枠を越える柔軟な指導方法を考える必要がある。そのためには、全教師の協力のもとチーム保育を図ることが重要になる。

幼児教育振興プログラムでも「幼稚園全体の協力体制を高め、より効果的なチーム保育の実践のための指導体制を整えること」を提唱している。幼児はかかわる相手に応じて様々な側面を見せることから、複数の教師が共同して保育にあたり、幼児一人一人のよさや可能性が開けていくようにすることが大切になる。そのことを踏まえ、全職員で幼児一人一人を育てるという視点に立ってチーム保育の実践を試みた。しかし、どこで、誰が教師の援助を必要としているか、何が育どうとしているのかを捉えるための幼児理解が十分でなかつた。その解決のために、より効果的なチーム保育の実践のための指導体制を築く必要があり、幼稚園教育の専門家としての力量を高めることが重要であると考えた。記録に基づいた研修、省察、保育カンファレンス等実践を通して教師同士が意見を交換し合い、深く追究していくことを園内研修の中心に据え、研究を進めた。その中で日々の保育を共に振り返ることで、教師一人では気づかなかつた幼児の姿や自分とは違う見方、考え方につれることにした。

そこで、本研究では幼児の「しなやかな心と体」を育てるためのチーム保育の工夫を図りながら探り、教師間の日々の保育の協力と話し合いを深めつつ幼児理解を追究し、専門性を高め合う園内研修を目指したいと考え本テーマを設定した。

## II 研究の視点

1 園内研修を通して幼児理解を深め、「しなやかな心と体」の育ちを図るための環境構成の工夫や援助のあり方を探る。

(1) 幼児が周りの環境に心を動かし、自分の心を開いていく姿を捉える。

- (2) 友達に働きかけ、自分からかかわろうとする姿を捉える。  
(3) 幼児が周囲の環境に目を向け、主体的にかかわっていく姿を捉える。
- 2 幼稚園教育の専門家としての専門性を高め合う研修を通してより効果的なチーム保育のあり方を探る。

### III 研究内容

#### 1 幼児理解について

保育の出発点は幼児理解である。幼児と生活を共にし、触れ合いながら、言動や表情、行動等から幼児のよさや可能性、発達する姿、心の動きなどを受け止めて幼児を理解する。

##### (1) 具体的な方法

- ① 觸れ合いを通して
  - ア 幼児と生活を共にする。
  - イ 幼児一人一人の気持ちを受け止める。
  - ウ 幼児に心を寄せ理解しようとする。
- ② 記録を通して
  - ア 個々の幼児について生活する様子や変化を観る。
  - イ 幼児の姿とその姿を生み出したきっかけや状況を捉える。
  - ウ 個人記録・実践事例・プレイマップ等記録の工夫をしながら、幼児を理解する。
- ③ 多くの目を通して
  - ア チーム保育・保育カンファレンス・ミーティングを実施し、自分の指導方法に気づくと共に多様な意見の中から、幼児の見方に気づく。
  - イ 幼児の表情や言動の意味を、教師同士の意見のなかから解釈していく。
  - ウ 幼児の姿を多くの目で見たことを重ね合わせ、より深く捉えるようにする。
- ④ 事例研修を通して
  - ア 園内研修の場で教師同士切磋琢磨する中で幼児を見る目を高めていく。

##### (2) 幼児理解のための教師の姿勢

- ① 幼児と教師との温かい信頼関係を確立する。幼児は教師との温かい信頼関係の中で、伸び伸びと自己を表出することができる。
- ② 生活の様々な場面で表現しているサインを幼児の立場で丁寧に受けとめる。
- ③ 幼児と様々な場面で触れ合いを重ねていく中で、あせらず、決めつけずに、一人一人の幼児への関心を持ち続ける。

#### 2 「しなやかな心と体」とは

幼児の心と体の健康は相互に密接な関連を持ち、一体となって形成されていく。「しなやかさ」とは、体だけでなく心の面からもとらえ、柔軟に発想できて、気持ちの切り替えができる、危険に対応していく心と体を養おうとするものである。そのためには幼児の心が安定することが必要で、教師や友達との温かなふれ合いの中で、自分に気づき、満足感を味わうことから生まれるものである。幼児は、自分の存在を教師や友達に肯定的に受け入れられていると感じられるとき、生き生きと行動し、自分の本心や自分らしさを素直に表現するようになり、その結果、意欲的な態度や活発な体の動きを身に付けていく。そのことからして教師のかかわりが重要であると共に、幼児が一日を過ごす集団のあり方も重要である。

幼児は様々な環境に取り組んで活動を展開することを通して、様々な場面に対応できるしなやかな心の動きや体の動きを体得していくと考える。すなわち、「しなやかな心と体」をもつ幼児とは、「自立する力」「柔軟とたくましさ」「思いやり・やさしさ」「困難を乗り越える力」を持つ幼児として捉える。

### 3 「しなやかな心と体」を育てるには

#### (1) 心が周りに開かれていること

- ① 身の回りの環境（人的・物的）に対して興味や関心を持つ。
- ② 「なぜだろう、やってみたいな、やってみよう」等々と周りの環境に心を動かす。

#### (2) 周囲との柔らかな関係がもてること

- ① 自分の思いを表現すると共に友達を受け入れることができる。
- ② 友達に対して、親しみや思いやりの気持ちを持つことができる。

#### (3) 周囲の世界に主体的にかかわっていこうとすること

- ① 好奇心や探求心を持って自分なりにかかわっていく。
- ② 試行錯誤を繰り返しながら様々なことに挑戦しようとする。

### 4 チーム保育の実践にあたって

複数の教師が共同で保育を行い、幼児理解について情報交換をすることで、一人一人の様子を広い視野から捉えることが可能になる。

幼児の行う活動は、ひとり、グループ、学級全体などで多様に展開されるものである。その中では幼稚園全体の教師による協力体制を築きながら、一人一人の幼児が興味や要求を十分に満足させるような適切な援助をおこなうことが大切である。遊びの意味を広げてあげるために、教師を一人の「点」として捉えるのではなく、一人一人の幼児に寄り添う「線」として個々の幼児の発達や集団の発達にチーム保育が生かされることが重要になる。そのためには、教師が遊びの展開の援助者であったり、幼児の心の居場所であることが大切である。チーム保育で指導法を工夫することは、幼児が人とのかかわりや体験を一層豊かにしたり、深めたりして、一人一人の特性に応じた指導の充実を図る上で重要である。

#### (1) チーム保育をする前の本園の課題

- ① 教師が他のクラスの幼児に対する幼児理解が弱かった。
- ② 安全面の配慮が十分でなかった。
- ③ 誰がどこで、どのような援助を必要としているかの捉えが十分でなかった。
- ④ 幼児が遊びや園生活で、何に行き詰まっているかの捉えが十分でなかった。

#### (2) チーム保育の実践に当たっての工夫改善

- ① 教師間の共通理解を図る
- ② 記録を通して幼児の姿を捉え、育てたいことを読みとる。
- ③ 銳い観察眼で誰がどこで、どのような援助を必要としているか捉える。
- ④ 一人一人の教師自身の持ち味を生かす。
- ⑤ ミーティングの内容を深め、保育の省察を次の保育に生かす。
- ⑥ 保育カンファレンスを通して幼児の見方、考え方をお互いに話し合う。

#### (3) チーム保育における課題解決のために

教師が保育全体を把握しようとすれば、全体をおおざっぱに見る“見廻り保育”になりがちである。逆にある幼児やあるグループの活動にかかわっていると他の幼児やグループの動きが十分捉える事ができず、適切な援助ができなくなってしまうという本園の課題解決のために次のことを共通理解した。

- ① かかわったどの幼児でも、その場でかかわったら、ある程度のめどがつくまでかかわる。
- ② 自分の学級だけの枠にこだわらず気持ちをオープンにし、教師間の連携を密にする。
- ③ 記録を整理することで、かかわりの薄い幼児を発見する。そのことを視野に入れながら保育する。  
(プレイマップの有効活用を試みる)
- ④ 保育ミーティングの中で幼児の様子を聞き把握する。進んで情報提供をする。
- ⑤ 学級の中で話し合いを持ち 幼児から教えてもらって把握する。
- ⑥ 保育の省察で、翌日、特に援助を必要とする幼児の予想をたてる。(場も含めて)

## 5 幼稚園教育の専門家としての専門性を高めるには

- (1) 幼稚園教育の内容を把握し、教師の役割を日々主体的に果たす。
- (2) 幼児一人一人の行動と内面を理解し、寄り添って保育を展開することにより心身の発達を促すよう援助する。
- (3) 幼児の活動と教師自らのかかわりやあり方を日々振り返る→そこから次の環境構成や援助を考えていいく→省察→指導の充実→この繰り返しによって専門家としての能力を自ら向上させていく。
- (4) 公開保育・記録・保育カンファレンス・ビデオ視聴研修会・外部講師の指導助言等による園内研修を充実させることにより、専門家としての自覚と向上に努める。

## 6 幼児理解とチーム保育を高めるための保育カンファレンス

### (1) 保育カンファレンスを通して指導の改善を図る

保育の専門性は、教師自身が一人一人の幼児と日々どのようなかかわり方をしているかを振り返り、保育の省察を重ねていくことにより身についていくと捉える。

保育の振り返りを教師仲間と語り合うことによって、立ち止まり、ふり返り、指導の改善を図るために保育カンファレンスを試みた。

### (2) 保育カンファレンスの実施に当たって

- ① 正解や意見の一致を求めるのでなく、多様な意見を交わす中で教師一人一人が自分の保育を振り返る。
- ② 多様な意見が出ることによって、自分には気づかなかつた視点に気づき、ゆさぶられ、枠を広げることで専門性が高まっていく。
- ③ 本音で保育が語れるようにすることで教師の心が開けてくることを大切にする。
- ④ 教師同士の成長を支え合い育ち合うことを重視する。

## 7 園内研修年間計画

### (1) 園内研修年間計画の視点

園内研修が計画倒れにならない為に、運営企画は幼稚園全体の教育活動のなかに位置づけ、無理のない計画と、その手順を具体的に示す必要がある。教師がつねに留まることのない明日への飛躍をもつ保育を考えながら、指導法を工夫・改善するために年間計画を作成した。

実施の際は教頭がリーダーシップを發揮し、方向性を示すよう心掛けた。

### (2) 園内研修年間計画

月 日	種 目	研 修 内 容
4月 上旬	教育目標の確認	教育目標の確認・共通理解・学級の実態把握・学級目標の設定
5月 15日 (水)	理論研究	研究テーマ・内容の共通理解・チーム保育についての研修 記録の取り方について
5月 21日 (火)	保育事例研究	チーム保育・実践事例に基づいて研修 (R教諭・O教諭)
5月 24日 (火)	理論研究	チーム保育の指導案・援助のあり方・環境の工夫について
5月 27日 (月)	保育研究会	指導案検討会・チームの組み方について・環境の確認
5月 28日 (火)	保育研究会	チーム保育・保育カンファレンスの実施 指導講師招聘
6月 4日 (火)	指導案作成	チーム保育指導案作成 (反省を踏まえて) 個人記録の作成確認・顔写真の準備
6月 6日 (水)	検証に向けて	指導案検討会・環境と援助について共通理解
6月 7日 (金)	理論研究	チーム保育・保育カンファレンス (2時~3時45分) 研究所指導主事・指導講師招聘
6月 20日 (木)	ビデオ視聴による研修	保育ビデオを通して研修—教師の援助のあり方— 先生ってなあに—5歳児の保育を考える—

6月 26日(水)	事例研修	実践事例に基づいて（事例→T教諭）
6月～7月	実態調査	実態調査の実施・まとめ・報告会
7月 12日(金)	保育研究・講演	保育研修・講演会「幼児教育の大切さ」・外部講師招聘
7月 25日(木)	環境構成	一学期の反省・絵本環境の見直し
8月下旬	視察研修	先進園視察研修
7月 30・31日	短期研修会	講話・実技研・事例発表
8月 16日(金)	研修会	県立センター「絵本」研修会
9月 上旬	理論研修	「祖父母と園児の集い」について テーマとの関連について
9月 18日(水)	事例研修 運動会	実践事例に基づいて研修（事例→Y教諭） 運動会とテーマとの関連について
10月 17日(水)	ビデオ視聴 による研修	保育ビデオを通しての研修 何がやりたいの？一生活の中で育つ子どもたちー
11月 6日(水)	学力向上 対策研修	学対資料・実践事例検討 基本的な生活習慣・絵本の取り組み・園内研修の取り組み
11月 20日(水)	保育研究 カンファレンス	ティーム保育 保育研究会 講師招聘
12月 12日(金)	保育研究 講演会	保育研修・講演会 講師招聘
12月 24日(火)	研修反省	二学期の反省
1月 15日(水)	ビデオ研修	保育ビデオを通して研修「子どもと話していますか」
2月 5日(水)	保育園児との 交流	保育園児との交流（一日体験入園）の意義 テーマとの関連について
2月 中旬	幼・小連携	幼・小連携（大里南小学校にて） ・一年生と幼稚園生が仲良くする会の検討 ・児童の育ちについて ・指導上の問題点 ・課題について
2月 25日(火)	年間の反省	一年間の反省 ・ 次年度の研究の取り組みについて
3月 下旬	幼・小連携	幼・小連携（幼稚園にて） ・幼稚園・小学校一年担任との話し合い ・幼児の育ちについて ・幼稚園の生活について ・指導の申し送り



ティーム保育を公開し  
保育カンファレンスの実施



外部講師を招聘し  
保育研究会の実施

## IV 保育実践

### 1 「しなやかな心と体」を育てるための実践事例 1組担任の記録より

#### (1) T君の変容（周りに心を開いていく姿）

入園当初、友達がいなくて不安感が強いT君は母親を追って門から出て行こうとする。園庭にいる教頭が話を聞いてあげたり、一緒にうさぎのえさをあげたりして一日を過ごす。

4月中旬、牛乳の時間になるとしぶしぶ保育室に入ってくるようになる。側に座り話しかけたり、受け止めるよう努める。

家庭訪問をきっかけに笑顔が見られるようになり、担任には話しかけるが学級の子には話しかけられても返事をしない。まだ、友達がいなくて心を開けないでいるようだ。友達と遊べないので外に出て教頭と遊ぶ姿を受け止め、容認し見守る。折り紙が好きで丁寧に折っている。

4月26日遠足の日、集団行動から抜け出して近くで働いている別居中の父親に会いに行こうとする。真剣に話し合い、T君の父親に会いたい気持ちを共感する。5月上旬頃から家での出来事を話し始める。頑張っていることを学級全体の場で紹介し、自信を与える機会を多くするように心掛けた。心が開き始めた様子をキャッチし仲間との遊びに誘う。6月下旬頃からカレンダー替や当番の仕事を笑顔でるようになり、気の合う友達と鬼ごっこをするようになってきた。

#### (2) 考察

- ① 友達がいない不安感を受け止め、担任との信頼関係を築くように努めたことや教頭のところで安定する姿を焦らずに見守ったことが緊張感や不安感を和らげた。
- ② 自信を与える機会を多く持ったことで、担任に心が開き始めた。
- ③ 遠足の時、別居中の父親を慕って会いに行こうとしたT君の心を受けとめ、抱き寄せて話し合ったことにより担任と信頼関係が築かれた。
- ④ 担任の丁寧なかわり、T君の話に耳を傾け心を向けたことで心を開いてきた。
- ⑤ 教頭とティームを組んだことで、T君は安定し担任も焦らず見守ることができた。

### 2 保育ビデオ視聴研修

#### (1) 日時・・・平成14年6月20日（木）

#### (2) 内容・・・保育ビデオシリーズ「先生ってなあに」—5歳児の保育を考える—

#### (3) 方法・・・ビデオを見る視点やねらいを示して視聴し、教師の援助のあり方について考える。

#### (4) 視聴後の話し合い（抜粋）

T教諭・・本園では一年保育をしており、ビデオ教材の3年保育とは援助のあり方が違う。

M教諭・・一年保育では一学期もっと丁寧なかわりが必要と思う。

O教諭・・4歳児からの積み上げがないので遊び方を知らない。教師も一緒になって遊び方を教える必要があると思う。自分の保育も教師の願いと子供の思いがずれることがある。なぜかを考えるようにしたい。

Y教諭・・私達の保育は指示が多くないか。また、ビデオ教材でも課題になった事であるが、幼児の思いを受け止めず、先生の願いだけで援助してしまっているのではないか。

G教諭・・見廻り保育になってしまふと幼児のつぶやきが聞こえない。適切でない援助をしてしまっていることもあると思う。

T教諭・・一緒に遊び、生活を共にすることで援助の方法も見えてくるのではないか。

#### (5) 考察

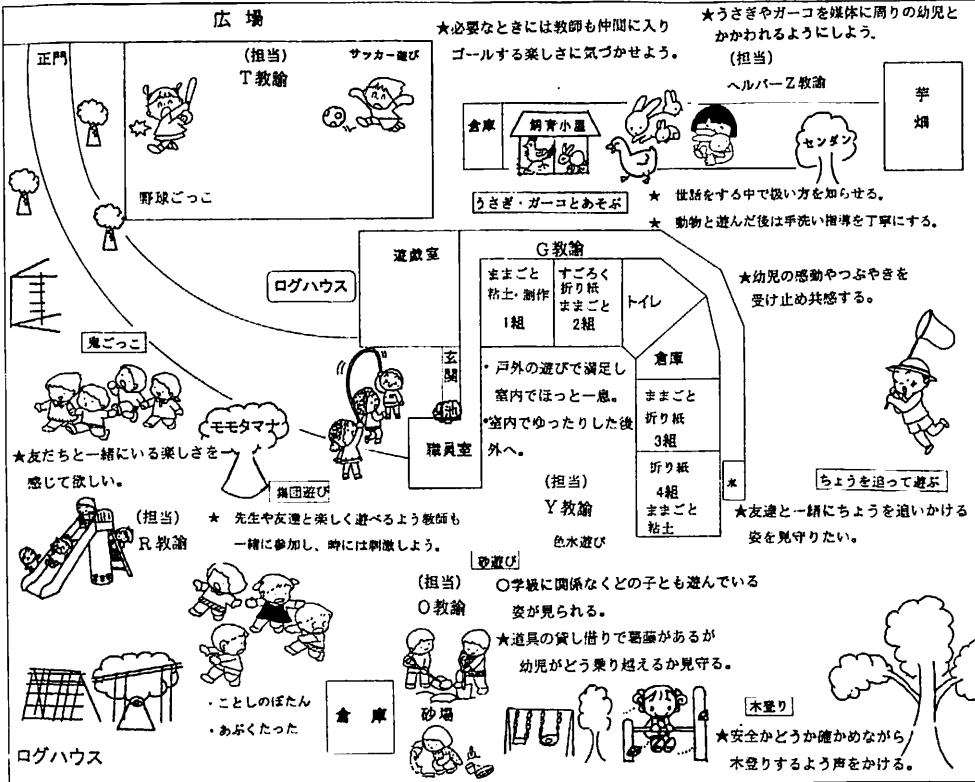
- ① 援助のあり方について話し合うことにより、自分達の保育を振り返る機会になった。また、幼児の発達の姿を捉え、つぶやきを聞き取り、寄り添うことの大切さを改めて実感した。
- ② 幼児に経験して欲しいことを教師として捉える事が適切な援助につながることが分かった。
- ③ 幼児の内面を理解したうえで援助をすることが重要であることがわかった。
- ④ ビデオ視聴の研修を通して教師の専門家としての自覚と向上に努めることができた。

3 公開保育[ティーム保育] 平成14年6月7日 午前8時30分～10時30分

### (1) ティーム保育の視点

担当場所にこだわらず、教師を必要としている場所を児童の姿から捉える。保育の展開に応じてチーム体制を柔軟に組んでいくようとする。

## (2) 環境図



他の学級の幼児とかかわって  
ままごとを楽しむ。



ちようの羽化に感動を共有する幼児達  
チームを組むことで感動の輪が広がった

### (3) 指導案

平成14年6月7日(金) 第14人 女12人 計26人			3組 R教諭					
幼児の変安	<ul style="list-style-type: none"> <li>園生活にも慣れ、自分の好きな遊びに取り組もうとする姿が見られる。</li> <li>気の合った友達と遊ぶ空も見られるが悪いがうまく伝わらずトラブルも出てきた。</li> <li>「先生〇〇が貸してくれない」「〇〇が仲間に入れない」の声が聞かれる。</li> <li>集合の合図があっても、なかなか集まれない。</li> </ul>	ねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>先生や友達と遊ぶ楽しさを味わう。</li> </ul>					
○ 予想される幼児の活動		★ 教諭の援助		☆環境構成				
時間 8:00～	10:15	10:30	11:00	11:30	12:00	12:30		
◎登園	◎好きな遊びをする	◎片付け	◎おやつ	◎当番活動	◎陣頭前のひととき	◎降園		
○あいさつ	先生や友達と一緒に	★一緒に片付けることにより	★いすの座り方を確認する	○拭き掃除・掃き掃除	○松本・話し合い			
○所持品の始末をする	○民謡	きれいに片付ける方法を	(いすを引く・いすの向き)	○手洗い場・ペランダ掃除	★一日を振り返ったこと			
○生活の場をきれいにする	○だるまさんがころんだ	知らせていいこう。	★おやつ後いすを机の中に	★当番の必要性を知らせつつ	や良かったこと・遊びを紹介し話し合う。			
	○ことしのぼたん	○片付け後、手足を洗う。	入れる。	喜んで仕事が出来るよう	紹介し話し合う。			
	○鬼っこ	☆足拭きタオルの準備	○踊り(おやつ後)	認め妨みそう。	★次週へ期待を持たせる			
★一人一人の幼児と挨拶を交わし	☆必要に応じて白線を引く★足の洗い方、拭き方を確認	○いいやんべーたいそう						
健康状態を把握する。	★一緒に遊び楽しい雰囲気作りをしよう。	★友だちと体を動かす楽しさ						
★生活の場をきれいにして遊ぶと	身近な自然に触れて	を味わって欲しいな。						
気持ち良いことに気づいて	○蝶・花や桜で遊ぶ	★幼児の発見、感動の声、つぶやきに共感しよう。						
欲しいな。	砂遊び							
		★友だちとごらうづくりが	  					
ログハウスで		楽しく展開できるよう援助しよう。	全体的配慮事項	個人的配慮事項				
折り紙			★生活面で一人一人の確認を心掛ける。 (おやつ時や当番活動時)	★Tくんは学級全体で集まるとき落ち着かない。 自分の思い通りにならないと泣いたり、手を出したりするので 周りの友達の思いにも気づかせ、皆と集まりが出来るようにしよう				
☆まごと		☆折ったものを壁面に飾る環境を準備する	★話が聞けるよう話し方を工夫する。					
★先生や友達と楽しく遊べるよう必要に応じて仲間に入り会話のやりとりと一緒に楽しもう。		★先生や友達と遊ぶ楽しみなど思える援助を心掛けよう。						
☆友だちとまごとが展開できるよう用具の提示をする。								
反省・評議	先生や友達とかかわって楽しく遊んでいたか							

(4) 一人一人の児童を援助する視点

一人一人の幼児の姿を捉え、教師の願いを持って保育を展開することにより幼児の発達に即した援助に努めた。

個人記録（抜粋） 3組 5月下旬から6月上旬

### (5) 保育反省（抜粋）

**R教諭**  
学級にこだわらず6名の女の幼児が縄跳びをしていた。跳ぶことには参加しないが縄跳びの歌を歌ったり応援して楽しんでいた。表情から捉えで友だちとかかわって遊んでいると捉えた。

野球とかかわった時、ボールを投げる順番のトラブルが見られた。ルールを守らない幼児に対してケンカ腰になることがあったが見守ることで自分で解決していく。

Y教諭  
雨が降って來たので、幼児と相談し急き上保育室にピールテープを張り外でのじやんけん陣取りを室内に移動

た。「一緒にやろうよ」とT君がテープを張り始めた。  
機応変に動くこの姿がしなやかな育ちにつながると思  
った。

○教諭  
砂場ではイメージを出して自分達で役割をきめて遊びを進めていた。フェンスまでトイを伸ばし遊びが広がり、達とのかかわりが見られた。今日は仲間としてかかわった。

番号	名前	幼児の姿と教師の願い
1	K男	入園当初は一人遊びが多かったが5月に入り、遊びの中で友だちとのかかわりが見られてきた。友だちにやさしい言葉を掛けたりする。今の姿を見守っていきたい。
2	H子	友だちと仲良く遊んでいるように見えたが、「誰も遊んでくれない」「遊ぶ人がいない」と訴える。一緒に遊びながら友だち関係を見守っていきたい。
3	M男	遊びの中で、先生とのかかわりを求めてくる。友だちとかかわる姿も見られる。当番の仕事も頑張る姿が見られるので認めながら温かく見守っていきたい。
4	T男	相手を傷つける言葉を使ったり、乱暴な態度が見られる。相手の気持ちに気づかせたり、正しい言葉使いを心がける。なぜ乱暴になるか観察したい。

#### 4 公開保育後の園内研修

(1) 園内研修会順 (保育カンファレンス) 平成14年6月7日 2時~3時30分 司会 M教諭

項目	時間	内容	★留意事項
はじめの言葉 研究所から 保育反省 ・記録に基づいて	2分 3分 25分 (5×6名)	研究主任Y教諭 島尻教育研究所主任指導主事 1組担任→2組→3組→4組→Z教諭の順に保育反省を行う。 ○自分がかかわった児童への援助のあり方はどうだったか。 ○ねらいに対して、どのような手立てをしたか。 ○環境の構成はどうだったか? ★具体的な発言を促す。 ★教師の話の要点をまとめる。 ○児童の姿から「しなやかな心と体」の育ちをどう捉えるか。 ・児童が周りの環境にどのように心を動かしていたか。 ・児童が友達に働きかけたり、かかわろうとしていたか。 ○ティーム保育がどういかされたか。 ★研究テーマの追究に沿うよう整理する。 ★教師批判にならないよう明日の保育につなげる工夫をする。 ★保育の改善や方向・方法を模索できるようにする。	
保育カンファレンス	40分		
指導助言 園長あいさつ 終わりの言葉	12分 5分 3分		

#### (2) 保育カンファレンス (抜粋)

T教諭・・しなやかさはたくさんもはりますよね。野球をしようとY君を誘ったのにバットを投げつけた「なんで投げたの?」と注意したら泣き出した。後で担任に聞いたら気の弱い子で登園拒否から立ち直ったばかりだという。気の弱い子を責めてしまったのかな。  
S教諭・・気の弱い子を責めたのは間違いかしら?  
O教諭・・私は担任だから追っていたと思う。この子性格をよく知っているので。  
Z教諭・・先入観ないほうが指導しやすい。かかわった範囲、その時の状況判断で指導したい。  
O教諭・・女の子に対して恥ずかしがり屋。担任と手をつなぐのも恥ずかしがっている。  
S教諭・・後でT教諭に笑顔でかかわった姿から捉えて、Y君は反省したかも知れないね。バネになつたかも知れない。悪いことしたと思ったのではないか。  
G教諭・・Y君の表情を見ていると乗り越えられるかも知れない。  
M教諭・・これがティーム保育の良さでしょうね。児童はかかわる相手によって違う姿を見てくれます。

#### (3) 園内研修後の反省・評価

- ① 「しなやかな心と体」の育ちにつながる援助の工夫がなされたか。
  - ア T君が友だちにハサミを貸さない姿を一方的に決め付けず内面を読み取った。ハサミで粘土を切ろうとしたので貸さなかたというT君の思いを捉えた。(R教諭)
  - イ 野球に誘つたらバットを投げつけたT君の行動を理解するために担任から情報提供してもらつた。援助のあり方を反省し、T教諭の方から話をかけたら笑顔で応えてくれた。T君の取つた行動の背景を理解することで、援助のあり方を工夫することができた。(T教諭)
  - ウ 繩あそびで直接繩跳びに参加しなくとも側で歌ったり、応援したりする姿を友だちとかかわる姿として捉えた。(R教諭)
  - エ ラップをすぐに解決せず、児童に育って欲しいことを頼って見守って適切な援助を心掛けた。(R教諭)
- ② ティーム保育としての環境構成の工夫がなされたか。
  - ア 環境構成を6名の教師で検討し、役割分担や児童へのかかわり方を共通理解した。
  - イ 教材投入について各教師が刺激し合い、環境の再構成がなされた。
- ③ ティーム保育は活かされたか。
  - ア クラス担任が把握できなかつた児童をティームを組むことで把握できた。午後の保育研究会で児童の様子を知ることができた。
  - イ 環境構成や教材投入を全職員で考えることにより内容がより豊かになった。
- ④ 教頭の立場からどうだったか。
  - ア 幼児の全体的な動きと教師の動きを捉え、その場に応じた示唆ができたか。
  - (ア) 全体的な把握をするためにくまなく回つた。特に教頭として教師間のティーム保育が機能しているかを視点見て回り示唆した。
  - (イ) 安全面を確認しながら児童の動きを捉えるようにし、各教師にもその場でアドバイスをした。
  - イ 保育研究会で研究テーマの追究ができたか。
    - (ア) 各教師の発言をうまく捉えるよう努め、テーマの追究の方向へ導くよう勧めた。
    - (イ) あえて、こうあるべきだと早急に解答を出さず、また、必ずしも全教師の意見の一致を求める、多様な意見を引き合せることで、自分の保育を振り返るようにした。
    - (エ) 具体的な事例を語り合うことができ保育の省察を深めることができた。

#### 5 プレイマップの活用

園内研修の一環で、園全体チーム保育を実施する際に、ティームを組む工夫、援助の工夫、環境構成の工夫を試みた。児童理解をする手掛かりとしてプレイマップを活用し、日々の児童の様子を記録した。記録を基にミーティングを実施することで児童理解と明日の保育の手掛かりを得るようにした。

##### (1) Aゾーンからの記録 (O教諭) 6月24日(月) 記録

###### ①遊びの様子(誰が、どのように、友達関係、ルールとの関係等々)

1組 (T君 H君 K君 Z君) 2組 (U君) 3組 (Y君 S君) 4組 (A君)  
達がサッカーをしている。

トルコ チーム・・・Y君 U君 H君 Z君 M君 (得意ではないがサッカーが好き)

日本 チーム・・・T君 K君 Y君 A君 S君 (サッカーが得意)

サッカーの上手な子とそうでない子に分かれてゲームを始めている。どの子も意欲的に参加している。ボールをうまくキックできない子、ルールがはっきり解らない子は次第に消極的となり「暑いから水飲んでくる」「ゴールキーパーがいい」等と言う。相手チームに負けまいと意気込んでいる。上手な子同士でチームを組んでシュートが決まるたび「ウォー」「日本チャチャチャ」の掛け声を出して意気投合して楽しんでいる。

###### ②児童のつぶやき

「手でボールをつかむな~」「キーパーは一人でやるんだよ!」「先生はトルコチームに入ってよ」

###### ③教師の動き(援助)

・ルールがはっきり解らない子には知らせてあげる。

・日本チームばかり点が入るので力差を配慮し、トルコチームの守る位置を指示してあげた。

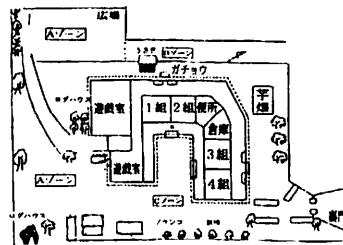
・教師が弱いチームに入り、強いチームの児童と刺激し合い、よい育ちにつながるよう援助した。

###### ④感じたこと・エピソード

・意気の合った子だけ集めて(サッカーの上手な子)

自分達の思い通りにゲームを進めようとする姿が見られる。勝敗を計算しているようだ。

・サッカーのルールのわからない子も一緒にになってチームを組んで欲しいと思う。(教えあって欲しい)



#### (2) 保育ミーティング(抜粋)

M教諭・・今の時期ルールにこだわる必要があったか。

T教諭・・ルールにこだわらず、ゲームを楽しみゴールする喜びが味わえるよう援助したいな。

O教諭・・力の差はあったけど一緒にゲームができる。強い日本チームのボールを守った喜びをトルコチームの児童は感じていたように思う。

Y教諭・・日本チームのY君に注意されたがトルコチームはずっと2人でキーパーを通した。

日本チームの児童達は、自分達は強いという誇りがあるのでそのままにしたのだろう。

O教諭・・強いチームに食らいついでいく姿は「しなやかな」育ちにつながると思った。また、強いチームと対戦できた喜びを感じているようだ。いつも憧れの限差しで見ていたから。

M教諭・・教師が守る位置まで援助してあげなくてもよかつたのではないか。

O教諭・・メンバーを見て、力の差を感じ、両チームに楽しさを味わわそうと思い援助した。

#### (3) プレイマップを活用して分かったこと。

① Aゾーン Bゾーン Cゾーン Dゾーン 保育室・遊戯室等各場所でかかわった児童の姿を記録することにより、児童理解をする手掛かりが増えた。

② 環境構成と教師の援助の手掛かりが増え、工夫につながった。

③ プレイマップは保育ミーティングで活用し、明日の保育に生かすことで有効になることが分かつた。

## 6 園内研修における意識調査

### (1) 教師への意識調査

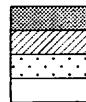
園内研修を通して、教師の専門家としての自覚と向上、保育のあり方を改善するうえでどのような意識の変化があったか教師を対象にアンケート調査を行った。

① 調査内容：幼児の見方、保育のあり方、個人記録、チーム保育、保育カンファレンス、専門性を高める等について。

② 調査月日：平成14年6月28日（金）

### (2) 評価の方法 A・・・とてもよくなつた

B・・・ある程度よくなつた  
C・・・あまりよくなつてない  
D・・・全然よくなつてない



0 1 2 3 4 5 6

幼児の見方・保育あり方	1 一人一人の幼児を大切にするよう努めた							
	2 主体性を尊重するようになった							
	3 幼児の内面理解に努めた							
	4 幼児の心の動きに沿って保育を展開するようになった							
	5 幼児が周りの環境に心を開いていくよう援助に努めた							
	6 幼児が環境に目を向け、主体的にかかわっていくよう環境の工夫に努めた							
個人記録	1 幼児一人一人をよく観察して記録するようになった							
	2 記録の視点がはつきりしてきた							
	3 幼児一人一人の発達の姿を捉えて指導に生かすようになった							
ティーム保育	1 教師間で話し合う機会が増えた（共通理解）							
	2 一人一人の幼児を広い視野から捉えることが可能になった							
	3 必要に応じてティームが組めるようになった							
	4 安全面の配慮に努めるようになった							
	5 誰がどこで、どのような援助を必要としているか捉えようと努めるようになった							
	6 教師の持ち味が生かせるようになった							
保育カンファレンス	1 情報交換を気軽にできるようになった							
	2 本音で保育を語れるようになった							
	3 保育を省察し次へ生かすようになった							
	4 きめ細かな保育を心掛けるようになった							
	5 幼児の見方、考え方をお互いに話し合うことでより深い幼児理解が可能になった							
	6 自分の保育の課題がみえてきた							
専門性を高める	1 公開保育をすることにより、教師の専門家としての自覚と向上に努めることができた							
	2 個人記録の活用や保育カンファレンスを通して教師の専門家としての自覚と向上に努めることができた							
	3 外部講師の指導助言により、教師の専門家としての自覚と向上に努めることができた							
	4 ビデオ視聴の研修会をすることにより、教師の専門家としての自覚と向上に努めることができた							

### (3) 考察と対策

#### ① 幼児の見方・保育のあり方

ア 「一人一人の幼児を大切にするように努めた」「主体性を尊重するようになった」「幼児の内面理解に努めた」の項目で全教師が「とてもよくなつた」「ある程度よくなつた」と肯定的に評価していた。諸研修が教師の意識の高揚につながった。

イ 幼児が環境に目を向け、主体的にかかわっていくよう環境の工夫に努めることが今後の課題である。

#### ② 個人記録

ア 一人一人の幼児をよく観察し、記録するようになったが視点がはつきりしない為、指導に生かされていない教師もいることが分かった。記入しやすい方法、様式を工夫する必要がある。プレイマップの活用を一例として促したい。

イ 記録の方法を自分なりに工夫することも大切である。

#### ③ ティーム保育

ア ほとんどの教師がよくなつたとの評価をしていることから、教師同士が開かれた関係になりつつあることが分かった。

イ 1～6の質問にCの評価があるのはティーム保育のあり方にまだ課題が残っている

#### ④ 保育カンファレンス

ア 保育の情報交換を気軽にできるようになり、本音で保育を語れるようになったがA・B100%でよくなつたと評価している。本音で保育が語れるようになったことは、大きな成果である。

イ 保育の省察をすることで自分の課題が見えてきたことは、明日の保育を考え、環境や援助の工夫につながった。

ウ 保育カンファレンスの内容を更に深め、教師の専門家としての自覚と向上に努めたい。

#### ⑤ 幼稚園教育の専門性

ア 公開保育・個人記録の記入・保育カンファレンス・外部講師の指導助言は専門性を高めるうえで有効だった。

イ ビデオ研修は、専門性の向上につながる内容を精選し、話し合いの内容を深めるよう努めたい。

#### ⑥ 意識調査全体考察

ア 園内研修を実施する中で、現地點に留まらず自分をもっと向上させる必要性を感じて厳しく自己評価をした教師がいる。そのことは、教師の専門家としての自覚が芽生え向上に努めようとする姿と言える。

イ これまでの諸研修は教師の意識改革につながった。

ウ 保育観の違いから、ぶつかり合つたりしながらもお互いの持ち味を生かしたり、よさを見出したりできるようになったことはお互いの心が開かれつつあり、専門性を磨きあっているものと言える。

## V 研究のまとめと今後の課題

### 1 研究のまとめ

園内研修の充実を通して、幼児の「しなやかな心と体」の育ちとチーム保育のあり方を探り、教師の専門家としての専門性を高める研究を進めてきた。幼児理解を深めるために、保育の実践記録や一人一人の発達の姿を捉えた個人記録の実施、ビデオ視聴による研修会、公開保育による保育研究会、保育カンファレンス等を試みた。その結果次のような成果が見られた。

#### (1) 幼児の「しなやかな心と体」の育ちを図るための環境の工夫の面から

- ① プレイマップを活用し、保育実践記録を取る事で幼児理解と活動の展開が把握でき、幼児が意欲的にかかわる保育環境の構成をすることができた。
- ② 保育カンファレンスを実施することで保育を省察し、好奇心や探究心が持てる環境の見直しと再構成をすることができた。
- ③ チーム保育を実施することで、教材投入の方法をお互いに刺激し合い、幼児の心が動く環境の工夫につなげることができた。
- ④ 外部講師の指導を受けることで、室内外の環境を幼児の発達に沿うよう見直すことができた。

#### (2) 幼児の「しなやかな心と体」の育ちを図るための援助の工夫の面から

- ① ビデオ視聴による研修では幼児の内面を理解したうえで援助することの重要性を確認し、また、幼児のつぶやきを聞き取り、幼児に寄り添って援助していくことが大切であることが分かった。
- ② 保育カンファレンスの実施、個人記録の記入等で幼児の発達の姿を捉え、幼児理解を深めることにより一人一人の幼児の発達に添った援助を心掛けるようになった。
- ③ チームを組むことで、それぞれの教師が援助のあり方を学び合い工夫を試みるようになった。
- ④ 外部講師の指導により、普段の幼児の生活の積み重ねを大切にし、生活指導を丁寧に行うようになった。

#### (3) 幼児の「しなやかな心と体」の育ちの面から

- ① チームを組むことで担任にゆとりが生まれ、幼児を焦らずに見守ることができた。周りに心を開かなかつた幼児が担任との信頼関係を築き心を開いていく姿を捉えた。
- ② 担任と教頭、学級担任同士で保育の内容に応じてチーム保育を実践した。その中で、教師のよさが生かされ生活指導の工夫と改善ができ、「しなやかな心と体」の育ちにつながった。

#### (4) 教師の専門性を高める面から

- ① 日々の保育記録から幼児の発達の姿を捉え、指導の工夫改善に努めることができた。
- ② 教頭がリーダーシップを發揮し方向づけに努めることの大切さを痛感した。

#### (5) チーム保育の工夫の面から

- ① チームを組むことで幼児が周りに心を開き、担任だけでなく他の教師や友達にも親しみが持てるようになった。また、教師間の信頼関係を築くことで焦らずに幼児を見守る援助ができた。
- ② 教師が本音で保育を語り、開かれた関係を築くきっかけ作りができたこととその重要性が分かつた。

### 2 今後の課題

- (1) 一人一人の幼児に寄り添う、更なるチーム保育の工夫・改善と安全面の配慮に努める。
- (2) 幼児が主体的にかかわる環境の見直しを図る。
- (3) 園長・教頭・研究主任の連携を図り、研修をあるべき方向へ導く。

#### 〈主な参考文献〉

文部省	『幼稚園教育要領解説』	フレーベル館	1999 年
現代保育実践研究会編	『保育実践事例集』	第一法規	1999 年
秋田喜美代編著	『教師のさまざまな役割』	チャイルド社	2000 年